

—W病の late component は1ケのみでなく数ケ続いて出現した。

この late components の出現の意義については不明であるが神経の再生現象、あるいは sprouting に関係しているとの考えが有力である。私共の症例は余り多くなく、今後、症例を増やしてさらに検討する予定である。

## 16、筋ジストロフィー症における消化器 障害について — 特に Myotonic dystrophy について —

国療箱根病院

中村正敬 岡崎 隆  
村上慶郎

Myotonic dystrophy には、腹痛、下痢、便秘などの消化器系の症状のみられることが多い。私共はこのような消化器症状を呈する4例の Myotonic dystrophy について、二、三の消化器系の検索を行った。

検便の成績は4例とも異常は認められなかった。糖負荷試験では一例が境界型であった。他は正常であった。消化器症状発作時の血清及び尿アミラーゼ値は正常であった。消化管の×線診断では、食道、胃にはいづれも著変を認めなかった。また胆嚢造影でも異常を認めなかった。大腸の注腸造影では、haustra の形成不良、atonic colon の所見が全例にみられ、2例に横行結腸の拡大、異常な蠕動運動がみられた。

Myotonic dystrophy の消化器症状については oesophagus、colon の拡張、異常な蠕動運動、胆嚢症などの合併症が報告されている。胃の拡張はこれらにくらべて少ないとされている。Kohn らは2例の colon の拡大と haustra の消失、激しい下痢を伴った Myotonic dystrophy を報告している。また Goldberg も colon が拡大し、完全に atonic になった一例を報告している。

これらの原因として smooth muscle の Myotonic dystrophy によるものであると考えられている。私共もこのような立場から今後種々の smooth muscle の機能及び組織学的な検索を進めて行く予定である。

S PMA 4例中1例は異常であり、1例は borderline であり、残り2例は正常であった。知能指数(WAIS)との関係は abnormal, borderline のものに低値の傾向にあったが、特に

有意の関係はなかった。

## 17 成人筋萎縮症の脳波学的研究

国立療養所箱根病院

岡崎 隆 中村 正敬  
村上 慶郎

種々の神経・筋疾患の脳波異常については可成りの報告がみられている。私共も当院に入院又は外来患者で成人の筋萎縮症患者について検討を加えているが、今回は一部を発表する。

対象は国療箱根病院に入院中の筋萎縮性疾患27例、及び小脳変性症4例である。年齢は20～60才まで、男子24名、女子7名で、muscular dystrophy 10例、Myotonic dystrophy 6例、spinal muscular atrophy 11例、小脳変性症4例であった。脳波測定は通常の方法で行った。

成績は10例の進行性筋ジストロフィー症のうち5例が正常、borderline 2例、abnormal 3例であった。

Myotonic dystrophy では6例中3例が abnormal , 1例がborderline であり、残り2例が正常であった。

Spinal muscular atrophy は11例中 abnormal 3例、borderline 2例で6例が正常であった。

小脳変性症4例中1例に abnormal , 1例はborderline で残り2例は正常であった。

進行性筋ジストロフィー症のうち、LG型は5例で abnormal 1例でこれは epileptic abnormality であり、borderline は1例で残り3例は正常であった。F S H型2例で、1例がborderline で1例は正常であった。Duchenne 型は3例で2例 abnormal で1例は正常であった。

Spinal muscular atrophy の11例中7例はK-W病であり、2例が abnormal であり、1例が borderline であり残り4例は正常であった。

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用   
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

Myotonic dystrophy には、腹痛、下痢、便秘などの消化器系の症状のみられることが多い。私共はこのような消化器症状を呈する 4 例の Myotonic dystrophy について、二、三の消化器系の検索を行った。

検便の成績は 4 例とも異常は認められなかった。糖負荷試験では一例が境界型であった。他は正常であった。消化器症状発作時の血清及び尿アミラーゼ値は正常であった。消化管の X 線診断では、食道、胃にはいずれも著変を認めなかった。また胆嚢造影でも異常を認めなかった。大腸の注腸造影では、haustra の形成不良、atonic colon の所見が全例にみられ、2 例に横行結腸の拡大、異常な蠕動運動がみられた。